

札幌市長 秋元克広 様

アスベストを含む断熱材剥落問題での緊急申し入れ

2016年11月7日
日本共産党札幌市議会議員団
団長 伊藤りち子

小中学校をはじめとする市有施設で健康に有害なアスベスト（石綿）を含む煙突用断熱材が劣化し剥がれ落ちていた問題は、子どもや保護者、市民に衝撃を与え不安を広げています。

アスベストは、耐火性や断熱性に優れ、建材に広く使われてきましたが、発がん性があるとして2006年に製造、使用が全面禁止され、2014年には石綿障害予防規則が改正されて除去や飛散防止措置が義務化されました。

報道では、この規則改正にもとづく文部科学省の指示に市教育委員会が従わず、点検を怠っていたことが明らかになりました。2014年と2016年に、2度にわたって全ての学校関係施設を点検するよう指示されながら、これを怠り、そればかりか「問題なし」と報告していたことは極めて重大です。

本市の調査（11月2日時点）で、対象とされる311施設中46施設で断熱材の剥落が確認され、うち小中学校13校を含む28施設でアスベストが含まれていることが明らかになりました。子どもたちが通う学校や多くの市民が利用する区民センターなどの公共施設で、このような事態が放置されてきたことは極めて重大であり、アスベストが飛散していた疑いも否定できないとの指摘もあり、多くの市民に不安が広がっています。

厳冬期を迎え、ボイラーの運転停止によって給食が提供できず、冷たいパンや牛乳などの簡易給食となる学校や、暖房の停止で休館を検討せざるをえない施設もでてくるなど、一刻も早い解決が求められています。

市民の不安に応えるとともに、二度とこのような事態を招くことのないよう、以下の対策を緊急に求めます。

記

1. 子どもや保護者の不安は計り知れません。父母をはじめ教育関係者への説明会を至急行い、その不安に応えること。市民に対し、随時、正確な情報開示を行い説明責任をはたすこと。
2. 飛散防止をはじめ万全な安全対策を行い、アスベスト除去工事を行うこと。
3. 簡易給食となっている小中学校について、温かい食事がとれるようあらゆる手立てを講じるとともに、給食の再開に全力をつくすこと。
4. 本市として、対策本部を設置し、建築物石綿含有建材調査者を配置するなど、アスベスト対策の全庁的な推進をはかること。
5. 学校をはじめ全ての市有施設について、レベル3までの実態調査を計画的に行い、その結果を公表すること。
6. 教職員をはじめ給食の調理員やボイラー運転の従事者など、本人が希望すれば退職者を含め、本市の負担で健康診断を実施すること。